

2009年9月30日に発生したスマトラ沖地震では、1,115人が死亡し、136,244棟の家屋、学校、病院などが倒壊しました。被災地は主に西スマトラ州のパダン・パリアマン県、パダン県、アガム県の3県にまたがっていましたが、この中でもパダン・パリアマン県は死者675人、被害住宅55,664戸と最も深刻な被害を受けました。

州都のパダン市から2時間程度の山間部に位置するパダン・パリアマン県では多くの住宅がブロック、レンガ、ヤシの木でできており、放置されたままの瓦礫が生活スペースを奪い、住宅再建の妨げになっていました。



ジェンは、2009年10月2日に出勤を決定し、10月14日から瓦礫撤去道具をパダン・パリアマン県のリマコト・ティムール郡に住む地震被災者に配布する緊急支援事業を開始しました。年末までに5,180世帯、約25,900人に一輪車やのこぎり、シャベルなどの瓦礫撤去道具を配布しました。

また、被災者の多くは地震発生の原因を知らず、また地震発生時への対応方法を知らないことがわかったため、リマコトティムール郡の全ての学校29校を対象に2日間の防災ワークショップを実施しました。

# 事業ハイライト in インドネシア / 瓦礫撤去道具配布

地震により大きな被害を受けながら支援が届いていなかったパダン・パリアマン県リマ・コト・ティムール郡で瓦礫撤去道具を配布しました。のこぎりやハンマーなど小型の工具は1世帯ごとに配布しましたが、一輪車、大型のハンマーや斧などは5世帯で共同で使用してもらい、住宅再建に当たって村人同士での協力してもらうように促しました。



破壊の激しい家屋



被災者の生活状況確認調査



瓦礫撤去道具を受け取った被災者



破壊の激しい家屋



配布リストにサインする被災者



瓦礫を撤去する被災者



# 事業ハイライト in インドネシア / 防災教育ワークショップ



現地で調査を進める中で、被災者の多くは地震発生の原因を知らず、また地震発生時への対応方法を知らないことがわかりました。特に、地震の発生が自分の悪い行いに対する罰だと信じている住民が多く、それが地震への恐怖を助長する原因にもなり、不眠・日常の不安感を訴えていました。ジェンは正しい地震の知識の普及し、次回の震災に備えるための防災教育を実施しました。



防災知識の講義



熱心にメモを取る生徒



避難訓練の様子



配布資料を読む参加者



グループ・ディスカッション



避難訓練の様子



## 変化と効果

### ● 初動調査の実施

パキスタン同様、Chabo! の資金のお蔭で適切な初動調査が可能となりました。

### ● 被災後の生活環境改善

瓦礫撤去道具を受け取った被災者は、瓦礫を取り除くことで、瓦礫の下から衣類の入ったタンスなどの家財を掘り起こしたり、テントを立てるスペースができるようになりました。また、瓦礫撤去道具として配布した物資は住宅再建にも利用できるため、被災直後の混乱が落ち着いた後の住宅再建も促進しました。



### ● 地震に対する不安の解消



敬虔なイスラム教徒の多い被災地域では、地震は自分の悪い行いに対する神の罰と信じて、不安を感じる子どもたちがいました。

防災ワークショップ後に地震や防災習慣に関する理解度を参加者に対して実施したところ、87.8%の正答率を得ました。地震のメカニズムを理解した子どもたちは、将来地震が来た時にどう行動すれば良いか分かり、不安を解消することができました。



## その他の事業地



- イラク
- アフガニスタン
- 新潟

を含む計8カ国 369,050人 の自立を支援しました。

